

「準離島振興法」の制定に向けて



浜崎 昭臣 議員

【浜崎】天草五橋開通から約50年になるが、交通アクセスに関して未来の明るい展望が全く見えない。今回も「準離島振興法」の議員立法化の可能性についてお尋ねする。行政、私共議員、天草市民全員が情報の共有を図る事がまず大切と思ひ、現状の天草の交通アクセスの深刻な問題を再認識する一環として質問します。

【熊本天草幹線道路について】

【浜崎】70kmの内、国交省管轄の三角〜熊本32km区間の供用開始ゼロに対し、私達島民は最大の怒りを爆発すべきだと思う。さらに一号橋を含む3・7km、「第二天草瀬戸大橋」が完成しても、今の進捗率だと全線開通まで80年以上の歳月を要するが市長はどう思うか。

【市長】整備促進期成会の会長として早期完成を図る為、今年度国交省へ2回の要望活動を実施、予算獲得に向け大きく前進したと考えている。

【3県架橋について】

【浜崎】実現の可能性と完成時期についてお尋ねする。

【市長】必要不可欠な「命の道」として欠かすことが出来ない。継続して3県の交流事業にも取り組んでいる。

【天草八代架橋について】

【浜崎】天草の将来を考えると、この架橋こそ不可欠と思う。交流人口1,000万人も夢でなくなり、国際港・八代港が近くなり農林水産業の振興に大いなる未来の展望が開ける。

【市長】整備促進期成会を中心に熊本県等への要望活動に取り組んで行く。

【フェリー航路について】

【浜崎】先月島鉄フェリーが補助金を活用して約9億円で新造船を就航させた。天草南の玄関口牛深〜長島間のフェリー航路に対し何らかの補助は出来ないか。

【市長】今後必要な支援策について現在検討を進めている。28年3月議会においてお願いしたいと考えている。「準離島振興法」について、新法の立法よりもまずは現在適用を受けている、法の拡充を求めていく事が必要と考えている。

産業振興チャレンジ基金事業について 高齢者支援について



鈴木 秀孝 議員

【産業振興チャレンジ基金事業について】

【鈴木】チャレンジ基金補助金の目的は。

【市長】起業等による雇用の創出であり、基金は7億円を積み、3年間で行く。

【鈴木】補助金に頼りすぎて、経営努力を削ぐのでは。

【市長】補助的エンジンとして活用し、アマビズ等により支援を行い経営努力を削がない仕組みを作る。

【鈴木】補助金を交付した企業の状況は。
【産業政策課長】12件が交付決定し、雇用者数は37人である。
【鈴木】補助金の対象業種は。
【産業政策課長】起業の業種は絞り込まない。しかし、今後は本市の経済振興も重要であり考慮していきたい。

【鈴木】審査方法を見直すところがあるが、産業政策課長 補助金の算定方法や審査会の実施方法の変更を行う。書類審査だけでなく申請者と面談し、熱い思いを聞くべきと

思うが。

【高齢者支援について】

【鈴木】配食サービスの現状は。
【産業政策課長】平成26年度、利用者数は833人、1万1,391食の配食サービスを行っている。

【鈴木】介護予防として、運動、口腔、栄養の機能向上のため、これからの指導を行い機能の維持、改善を要望する。



スポーツ振興について 和牛出荷頭数維持について

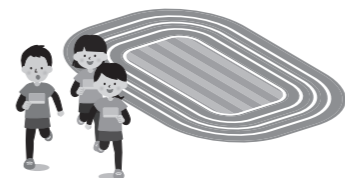


宮下 幸一郎 議員

【スポーツ振興について】

【宮下】本渡運動公園に隣接する(株)日本たばこ産業の建物が解体され、隣接地を含めて、現在の施設の総合的な見直しは。

【市長】日本たばこ産業さんの用地については、是非、お譲りいただきたい。市内のスポーツ施設が老朽化し、維持管理に多大な経費を要している。本渡運動公園陸上競技場は、競技力の優れた選手を育成、支援するため400mトラックへの整備要望、テニスコート数の増設など体育協会に所属する種目協会等より、数年前から要望が出されている。担当課に現状把握、老朽化調査、敷地分析などの調査をさせて施設整備計画を策定するよう指示をしている。



【宮下】体協各種目協会で不足する備品への対応は。
【地域振興部長】体育施設の要望を含めて必要な備品の整備を、体育

【和牛出荷頭数維持について】

【宮下】今議会補正予算計上の牛白血病(BLV)抗体検査の効果は。
【経済部長】BLV感染比率の低下は市場的に信頼度の上昇につながる。感染牛は販売額全額を払い戻す損失から感染有無の抗体検査を行う。

【宮下】現在、和牛生産意向調査が実施中で、結果を踏まえ和牛生産向上へ向けての補助事業等は。
【経済部長】県内外の補助額や他の事例と本市の貸付補助事業等と比較検討し、新年度以降の検討課題としたい。



御所浦架橋の現状 御所浦乗合自動車の料金見直し



尾川 義純 議員

【尾川】どうなる御所浦架橋。カギを握るのは知事と県の再評価監視委員会。

【市長】いつ精査が終わるか公表されていないので、これが終わらない限り次の実施計画も立たないという現状である。今後も御所浦架橋については、機会あるごとに架橋建設を強く要望しますので、島民の方々へもご協力をお願いしたい。

【尾川】運賃割引事業についてはすべて利用者を対象とすることを提案、県と前向きな協議を。

【市長】県に対して、振興策であるならば御所浦に流入していただくために島民と同じ条件で運賃の補助をやるべきという考えは十分



フェリーの乗船風景



御所浦乗合自動車